

## 第1回鳥取県地震防災調査研究委員会の議事概要

1 開催日時 平成27年1月26日(月) 14:00~15:40

2 開催場所 県庁第2庁舎4階 第33会議室

### 3 議事

- (1) 鳥取県地震防災調査研究委員会運営要綱の決定
- (2) 委員長の選任
- (3) 部会に属する委員の指名
- (4) 地震津波の防災に関する有識者に対して出席を求めること
- (5) 鳥取県の地震・津波被害想定の見直し

ア 事業の概要

イ 今後のスケジュール

ウ 実施計画

### 4 議事結果

- 想定地震については、現在の想定(H14からH16年度実施)の7箇所の地震のほか、南海トラフ巨大地震、島根県鹿島断層など4箇所を追加して合計11箇所の地震を想定する。
- 次の被害想定部会に、山陰の地下のひずみをGPS観測で説明した京都大学防災研究所の西村卓也准教授を招へいする。
- 次の被害想定部会は、平成27年3月24日に開催する。

(主な意見)

- 島根県鹿島断層、雨滝一釜戸断層などの大すべり域(強震動生成域)を、鳥取県側の震動が大きくなるように設定すること。
- 断層パラメータについては、最もあり得るパターンのほか、何通りか検討すること。
- 想定するシーンとして、兵庫県南部地震のような冬の早朝についても、深夜より火災が発生しやすい可能性があるので検討してはどうか。
- 建物被害について、積雪の影響を考慮すること。
- ブロック塀倒壊により発生する直接的な人的被害のほか、副次的、間接的な被害について、可能であれば検討してもらいたい。
- 被害想定の結果は、GIS機能があるなど市町村が活用しやすい形で提供すること。
- 地域防災力を評価する際には、コミュニティによっては、防災意識は高いものの構成員の年齢層が高いためにざというときに動けないおそれがあるので、注意すること。